

3 現在のカリキュラムの特長と運用状況について

1 カリキュラムの特長

近年、経験重視のカリキュラムが増加傾向

現在のカリキュラムの特長について、3つの軸を設定して、どちらに近いかをたずねた。1つ目は、「知識重視か経験重視か」である。全体では67.5%が「知識重視」であるが、入試難易度(偏差値)別には、「50未満」で「経験重視」が相対的に高く(「60以上」23.4%<「50未満」35.6%)、学科系統別には「教育」の51.8%が「経験重視」で顕著に高い。また、カリキュラムの改訂時期別みると、近年になるほど、「経験重視」が増えている傾向がみられる。

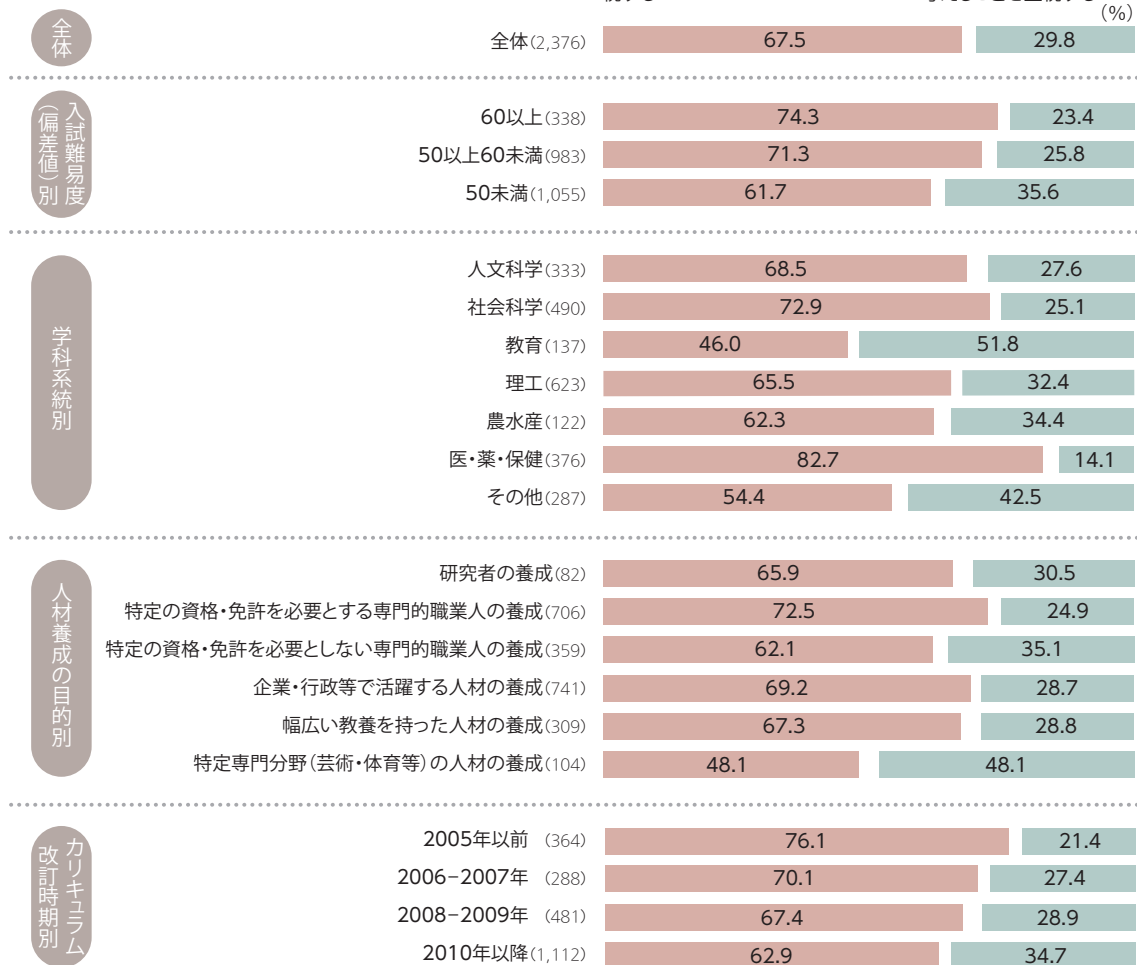
Q 貴学科の現在のカリキュラムはどのような特長を持っていますか。それぞれについて、ア・イの内容に近い方を選んでお答えください。(それぞれ○は1つ)

図21 カリキュラムの特長 [知識重視⇔経験重視/専門的能力重視⇔汎用的能力重視/自由選択重視⇔系統性重視]

1) 知識重視 ⇔ 経験重視

■ ア:知識重視
最初に基礎的な知識や理論を学ばせ、後から応用的な学習をさせることを重視する

■ イ:経験重視
最初に経験や体験をさせ、後から理論を学ばせたり、できるだけ経験の機会を与えることを重視する (%)



注) 無回答があるため、2項目の値を合計しても100%にはならない。

社会科学で汎用的能力、人文科学で自由選択を重視

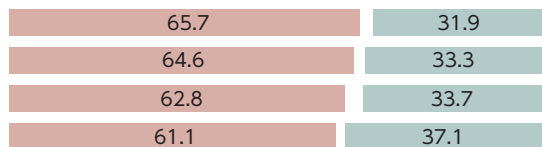
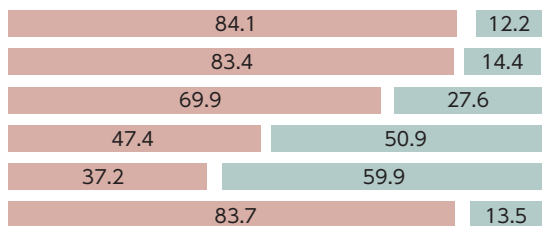
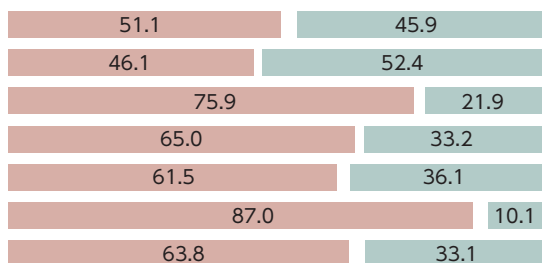
2つ目は、「専門的能力重視か汎用的能力重視か」である。全体では、「専門的能力重視」が62.9%と多いが、学科系統別にみると、「社会科学」では、「汎用的能力重視」が52.4%と半数を超えている。また、人材養成の目的別には、「企業・行政等で活躍する人材の養成」「幅広い教養を持った人材の養成」を目的とした学科で、「汎用的能力重視」がそれぞれ50.9%、59.9%と、「専門的能力重視」より多くなっている。

3つ目は、「自由選択重視か系統性重視か」であり、全体では「系統性重視」が63.6%と多い。しかしながら学科系統別にみると「人文科学」「社会科学」では「自由選択重視」の方が高く（それぞれ56.8%、51.2%）、人材養成の目的別には、「幅広い教養を持った人材の養成」を目的とした学科で、「自由選択重視」が59.2%に及んでいる。

2) 専門的能力重視 ⇔ 汎用的能力重視

■ ア: 専門的能力重視
専門的な知識・スキルを獲得させることを重視する

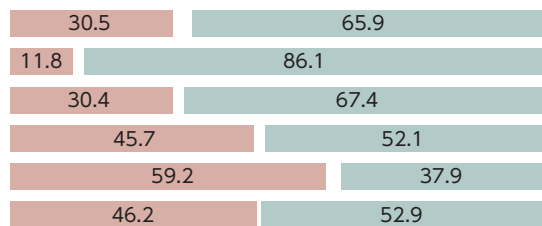
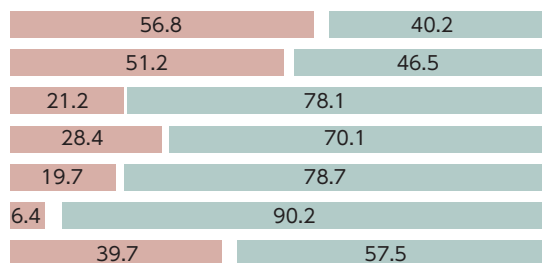
■ イ: 汎用的能力重視
幅広い知識や汎用的スキルを獲得させることを重視する



3) 自由選択重視 ⇔ 系統性重視

■ ア: 自由選択重視
学生が自由に科目を選択し学ばせることを重視する

■ イ: 系統性重視
学問体系に沿って、系統的に学ばせることを重視する



2 学習効果を高めるためのカリキュラム上の工夫

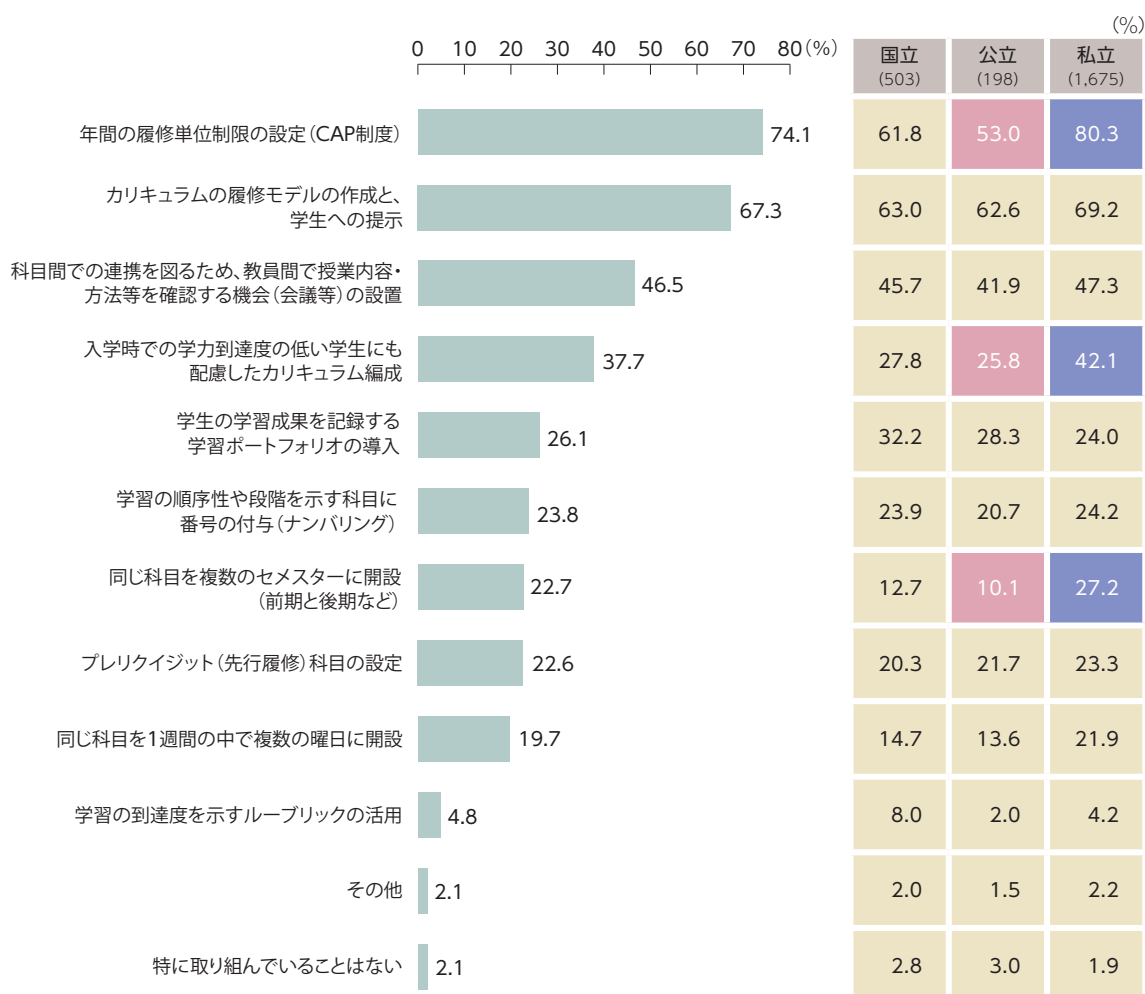
私立大学の8割でCAP制度を実施

学習効果を高めるためにカリキュラム上の工夫として、近年注目されている制度を中心に10項目を掲げ、その実施状況についてたずねた。最も高かったのは「年間の履修単位制限の設定(CAP制度)」で74.1%の学科で実施している。設置者別では、私立の実施率が80.3%と高い。また、「入学時での学力到達度の低い学生にも配慮したカリキュラム編成」「同じ科目を複数のセメスターに開設(前期と後期など)」も国公立より私立の学科で実施率が高くなっている。



「主体的な学習」を促すことを含め、学生の学習効果を高めるために、下記のようなカリキュラム上の工夫をしていますか。実施しているものを、すべてお答えください。(○はいくつでも)

図22 学習効果を高めるためのカリキュラム上の工夫 (全体・設置者別)

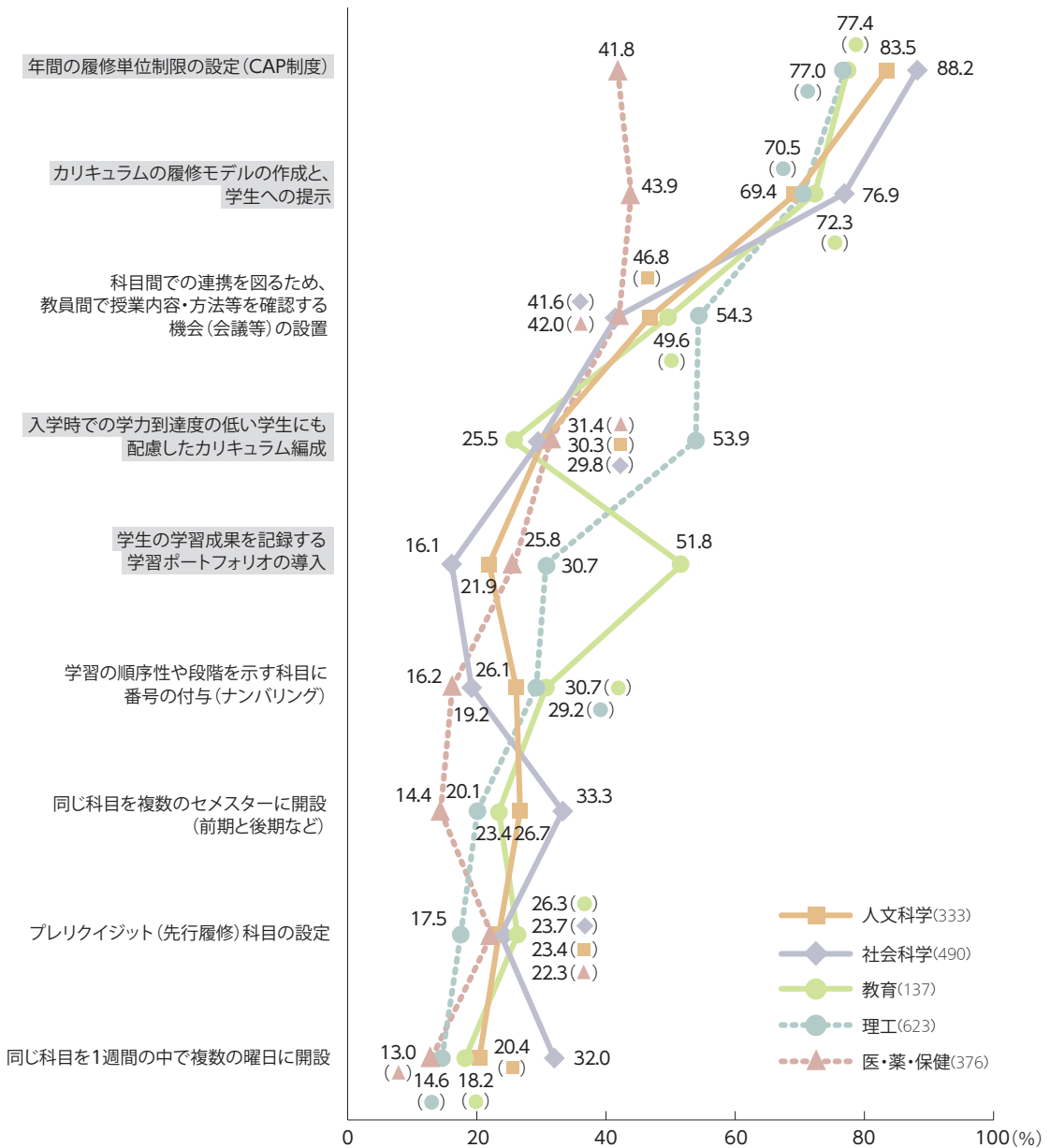


注1) 複数回答(図23も同じ)。 注2) n=2,376。

注3) 設置者別の表の網掛けは、設置者間で10ポイント以上の差があるもので、最も高いものを■、最も低いものを■で示している。

次に、学科系統別（5学科系統のみ）に比較をしたものが図23である。「年間の履修単位制限の設定（CAP制度）」は「医・薬・保健」では41.8%だが、その他の4つの学科系統の実施率はおよそ8～9割で、「社会科学」で88.2%と最も高い。また、「入学時での学力到達度の低い学生にも配慮したカリキュラム編成」は「理工」の半数（53.9%）で実施されており、他の学科系統に比べて顕著に高い。さらに、「学生の学習成果を記録する学習ポートフォリオの導入」は「教育」で51.8%と高い。

図23 学習効果を高めるためのカリキュラム上の工夫（上位9項目・学科系統別）



注) 項目の網掛けは、学科系統間で20ポイント以上の違いがみられる項目を表す。

3 カリキュラムの評価

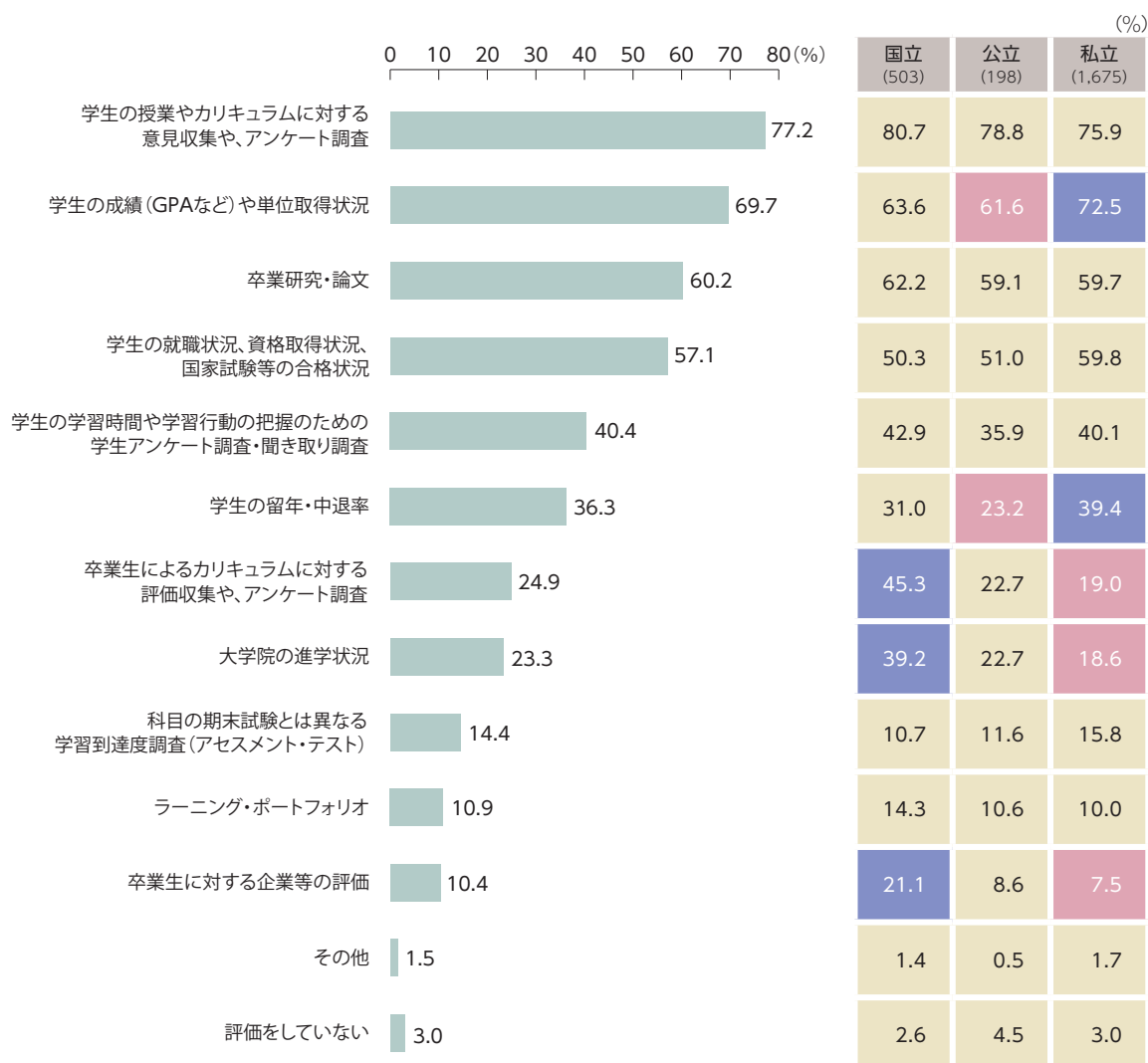
授業評価アンケートが約8割。国立では、卒業生や企業等の学外評価も

カリキュラムの評価に際して、指標として多く用いられているのは、「学生の授業やカリキュラムに対する意見収集や、アンケート調査」(77.2%)、「学生の成績(GPAなど)や単位取得状況」(69.7%)である。国立では、「卒業生によるカリキュラムに対する評価収集や、アンケート調査」や「卒業生に対する企業等の評価」など大学外からの評価を取り入れている割合が公立・私立より高くなっている。



「主体的な学習」を促すことを含め、カリキュラムの成果や効果を評価するために、どのような指標を参考にしていますか。個々の学生の評価ではなく、貴学科でのカリキュラムの評価について、すべてお答えください。(〇はいくつでも)

図 24 カリキュラムの評価の実施状況 (全体・設置者別)



注1) 複数回答。注2) n = 2,376。

注3) 設置者別の表の網掛けは、設置者間で10ポイント以上の差があるもので、最も高いものを■、最も低いものを■で示している。

4 カリキュラムの運用上の課題

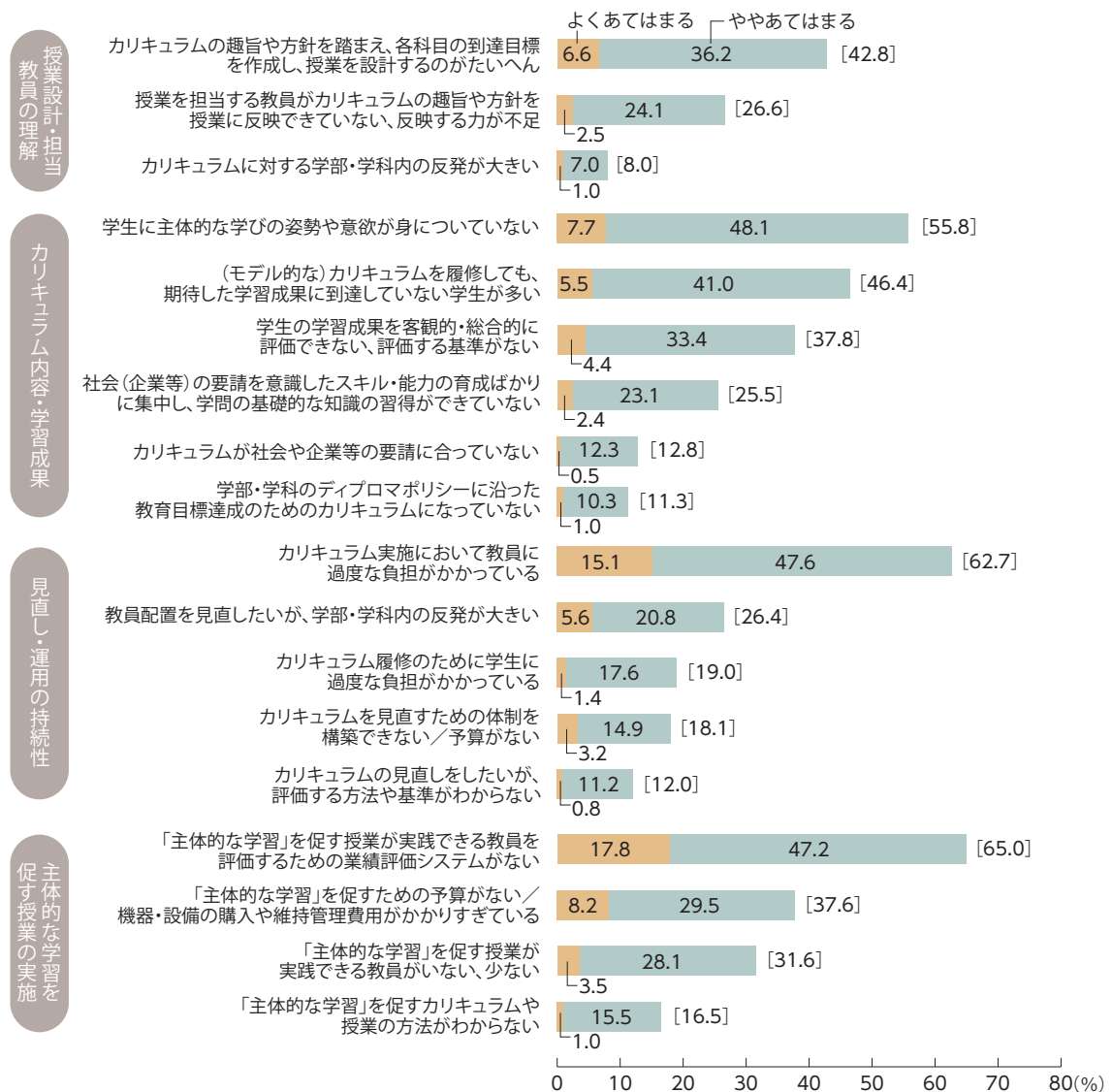
教員の負担と教員評価システムに課題

カリキュラムの運用上の課題として最も高かったのは、「『主体的な学習』を促す授業が実践できる教員を評価するための業績評価システムがない」65.0%（「よく+ややあてはまる」の%、以下同）であった。次いで「カリキュラム実施において教員に過度な負担がかかっている」62.7%と、持続性に関する問題点があげられている。さらに「学生に主体的な学びの姿勢や意欲が身につけていない」55.8%と、学習成果に係る課題が続いている。



現在のカリキュラムを運用する上でどのようなことが課題となっていますか。（それぞれ○は1つ）

図25 カリキュラムの運用上の課題



注1) n = 2,376。

注2) 選択肢は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4段階。

注3) []内の値は、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の%。

5 今後のカリキュラム改訂の意向

すでに改訂の取り組みを進めている学科が4割

今後のカリキュラム改訂の意向について、「すでに改訂を行う取り組みを進めている」が全体の43.6%、「まだ改訂には取り組んでいないが、すぐにでも行いたい」「数年以内には行いたい」と合わせると8割が改訂の意向を示している。設置者別には、私立で改訂の意向をもって高い割合が高い。一方、国公立では「改訂を行いたいとは思わない」という回答も2割を超える。学科系統別には、「取り組みを進めている」のは、「農水産」で高く(51.6%)、「理工」でやや低い(37.9%)。さらに、学科定員数別にみると、学科定員規模の大きいところほど、改訂の意向が高い傾向がみとれる。

Q

現在のカリキュラムの課題を解決するために、カリキュラムを改訂したいと思いますか。(○は1つ)

図26 カリキュラム改訂の意向 (全体・設置者別・学科系統別・学科定員数別)

